

# 震災特集

# 忘れられない、忘れてはいけない災害の記憶

～3・11東日本大震災・原発事故から7年

東日本大震災・原発事故から7年が経ちました。当たり前の生活を取り戻すことすら大変な状況が続く中で、今回の報告からも認知症の人と家族がどれほどの困難をのいでいるかが想像できます。その中でも、原発事故後の福島県の報告には胸が痛みます。

## 現地からの報告・岩手県

### 人々のきずなと生業の復興が課題

岩手県支部代表 小野寺彦宏

県内で最も被害の大きかった陸前高田市は、震災前の様相を一変して、中心市街地をかさ上げした広大な台地に、商業施設がオープンしました。コミュニティ図書館を中心にすえ、3つの店舗が商店街の核店舗としてスタートして1年を迎えようとしています。

公営災害住宅は、計画の890戸が完成し、すでに入居を終えています。高台に自力建設する土地の造成も土地の区画整理が進み、最終2018年度で住宅建設の見通しが出てきました。国の震災復興支援の期限、2020年度内の完成を目指して、陸前高田市は今、市庁舎建設に取り組んでいます。震災7年を経て、失われた住まいや商業施設も整い、公共施設も震災前の建物が再建されます。

しかし災害公営住宅は、入居は7割にとどまり、造成した土地も5割が建設の見通しがないという状

況です。また、中心市街地に出店を予定している個人商店も、「人口が激減したこの街で商売が成り立つだろうか」と不安を抱えています。

東日本大震災は、大切な命と財産を奪っただけでなく、人々のきずなと生業も奪い、この復興こそが被災地のこれからへの出口の見えない課題です。



12mのかさ上げ地にオープンした中心商店街

2018 ● MARCH

## CONTENTS

●震災特集 忘れられない、忘れてはいけない災害の記憶 ～3・11東日本大震災・原発事故から7年	2-3
●三宅貴夫顧問を偲んで これからも「家族の会」を見守ってください	4-5
●福祉の原点・社会保障の歴史④ 神野直彦	6-7
●書籍紹介「認知症になった家族との暮らしかた」／ 会員継続のお願い	6-7
●本人登場 私らしく仲間とともに	150
山形県支部 及川昌秀さん	8
●地球家族パートⅡ	9
●福井全研に向けて、着々と準備中！	9
●“つどい”は知恵の宝庫	131
一人暮らしの母との同居は難しく、いずれは 施設入居を考えています	10
●老健局の風 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長 田中規倫	11
●事務局ほっとコーナー／業務日誌	11
●会員さんからのお便り	12-13
●支部だよりにみる介護体験	162
青森県支部 佐々木梨枝子さん	14
●鈴木森夫代表の忙中『感、あり』	9
●編集委員の窓	15
●各地のつどい	20

## 現地からの報告・宮城県 求められる被災者の生活の安定

宮城県支部代表 佐藤 年夫

### 1 災害後の復興状況

県の震災復興計画は、2017年度は再生期の最終年度になり、災害公営住宅や宅地造成等の基盤整備が進んでいますが、県内には未だに仮設住宅に入居している方が1万人近くにも昇り、不便な生活を強いられています。

一方、仙台市の津波に襲われた沿岸部は、住まいの再建事業が完了し、海岸公園やかさ上げ道路などの整備が進められています。

### 2 行政や世の中の人伝えたいこと

(1) 県内の災害公営住宅の完成率は93%です。生活の不便を強いられる仮設住宅の解消のため、早期の完成が望まれています。

(2) 仙台市では、災害時の要援護者（認知症の人や障害者など、支援を必要とする方）に対して、地域の支援対策を進めていますが、①地域の福祉避難所がどこにあるかわからない、②市から渡される「要援護者リスト」は内容が不十分で災害時にはすぐには活用できない、③地域の避難訓練

は要援護者も含めた実施までには至っていないなどの状況が見られます。このため、行政や地域団体の実効ある対策が求められています。

(3) 仙台市の沿岸部には、高速道路（仙台東部道路）があります。震災発生時、この一帯には高台がないため、住民やお年寄りは、必死にこの道路により登り、津波から救われました。その後、津波の避難階段が整備されました。その場所が一般道から分かりにくいため、地域住民から改善が求められています。

(4) 津波の被災地から県外に避難した避難者の7割は、地元での仕事の確保の難しさや再建の資金

不足等により帰郷の予定はなく、避難先での生活の安定や帰郷のための支援対策が求められています。



東部道路の津波避難階段

## 現地からの報告・福島県

### 福島県民の犠牲を無駄にしないで！

福島県支部代表 佐藤 和子

震災・原発事故から7年。避難生活を送っている人はおよそ8万人。避難生活によるストレスなどで死亡した「関連死」は、2,211人（2018年2月26日現在）。昨年より70人以上も増加しています。

仮設住宅では住民の減少、災害公営住宅では生活環境の変化、いずれもコミュニティをどう維持するかが大きな課題になっています。避難生活の長期化は避難先での定着が進み、避難指示解除がされたどの市町村も、避難前の人口の1割～2割程度しか戻ってきていません。子どもは戻らず、戻ってきてているのは高齢者ばかり。「町の文化や伝統を継承する世代がいなくなる」と、伝承文化を必死で守ってきた人たちは不安を募らせています。

荒れてしまった田んぼには、放射能汚染土が入った黒い袋「フレコンバック」が今もところ狭しと埋め尽くしています。県内各地の仮置き場は、今も1,100カ所、住宅の庭先・学校などに保管されているのが14万6,000カ所（2016年9月現在）と住民の生活圏内での除染廃棄物の保管が続いています。

最近、「2月7日、福島第一原発で汚染水処理が停止。装置変圧器に異常か、変圧器内を調べたところ火花が出ていた」と新聞報道がありました。「原発事故初」—この文字を6年間、数えきれないほど目に留め、暮らしてきました。

「原発事故は収束していない」。生業も故郷の自然も失われたままです。

原発再稼働は福島県民の心を傷つけています。福島県民の多くの犠牲を無駄にしています。

避難指示が解除された飯舘村の汚染土保管現場（2018年2月11日現在）。今もフレコンバックが堆く積み上げられ、近くの放射線量は0.457μシーベルト（年換算で4ミリシーベルト=限度値の4倍）を記録



三宅貴夫顧問  
を偲んで

# これからも「家族の会」を 見守ってください

2018年1月13日に亡くなられた三宅貴夫先生（享年72歳）に、ゆかりの深かった皆さんに追悼文を寄せていただきました。2005年に顧問に退かれて以降、「家族の会」として先生に親しく接する機会に恵まれませんでした。その意味で、昨年暮れ、鈴木代表がお会いし、言葉を交わし、その思いに直接触れることができたことは、先生も喜んでください、「家族の会」にとってとても嬉しいことでした。その直後の訃報であっただけに、残念でなりません。先生、寄せられた皆さんへの想いを受け止めていただき、今後も「家族の会」を温かく見守ってください。



2004年6月総会

## ■ 三宅先生の死を悼む

顧問 早川 一光

「逝者は斯くのごときかな、昼夜を舍かず」  
(論語子罕)

早すぎもせず、遅すぎもせず。  
君の足跡は、静かな幕開けをもって始まり、静  
かな終わりをもって、消えた。  
見事な人生の一生を、私に教えてくれた。  
ありがとう、三宅先生。



ADI国際会議2004  
組織委員会  
月、組織委員会  
(2005年3月)

ノリ・グラハムADI前議長(左)らと笑顔で  
歓談 (2004年10月、国際会議パーティー)

## ■ 三宅先生、ご苦労さん

顧問 中村 重信

「Yoshio Miyakeはどう考えているのか?」—  
昨年の国際会議を準備中、外国からよく尋ねられた。  
三宅先生のご尽力により、「家族の会」が国  
際アルツハイマー病協会に参加し、日本の認知症  
介護状況を紹介して、国際会議を日本に招致して  
頂きました。私は、1997年のヘルシンキの第13回  
国際会議を、三宅先生ご夫妻と一緒に楽しみました。  
2003年の第19回国際会議の時も、三宅先生ご  
夫妻を囲んでマイアミで楽しく歓談しました。何  
といっても、2004年の国際会議に三宅先生が払  
われた献身的なご努力は、並々ならぬものでした。  
国際会議の経験の浅い「家族の会」の人たちを指  
導され、日本での会議を素晴らしいものにされま  
した。そのご業績は「家族の会」の会員のみなら  
ず、外国の方々にも高く評価されており、冒頭のよ  
うな言葉が出たものと思われます。昨年の国際会  
議でも、ご一緒にいただきたくお電話をして、抄  
録の査読などをお願いしました。そのようにして  
培われた三宅先生のお力を、今こそ高齢者の方々  
のために使っていただきたいと願っていたところ  
でした。しかし、ご逝去のため叶わなかったことは、  
認知症の問題で困っている今の日本にとって  
大変残念に思います。安らかにお休みください。

## ■ 三宅さん、ありがとう

顧問 高見 国生

三宅貴夫さんと出会っていなかったら、私の人生は違っていたんだろう。1979年の夏、失禁となんでも食べる養母の介護に疲れ果て、「何とかならないか」という思いで三宅さんに相談した。その日のうちに養母をみに来てくれて、失禁まみれの養母が差し出したみかんの一袋を何のためらいもなく食べた。この医者は本物だと思った。そして「大変ですね」と言ってくれた。初めて私たちの苦労を知ってくれる人に出会ったと思えた。勇気が湧いた。もう少し頑張ってみようかと思った。

その日から三宅さんとともにわが国初の「家族の会」の結成から活動の展開へと進んだ。ともに30代の青年だった。この活動は時代を先取りし、世のため人のためになることだと心が躍った。

彼は社交的ではなかったがその分、考えを曲げずひたすら活動に取り組んでくれた。調査や研究も先見の明があり、社会をリードした。全国研究集会も彼の発想で始まった。会報の発行と継続にも力を発揮した。2004年の国際会議は言わずもがなである。

三宅さんが副代表退任後は疎遠になっていたが、私も顧問になって対等の立場になった。旧交を暖めてもう一度、二人で何かができるかと思っていたが、叶わなかった。三宅さん、いろいろとありがとうございます。さようなら。

「家族の会」からADIとアジア太平洋事務局に訃報を伝えたところ、その直後より、世界中からお悔みが次々と届きました。一つひとつには、追悼の言葉とともに、先生への尊敬と感謝、そして友情が込められていました。これらを読み、先生のご功績と海外に与えた影響の大きさを改めて感じました。これまでに届いた50通あまりの中から、特に親交の深かった国際アルツハイマー協会（ADI）のグレン・リーズ議長からのメッセージをご紹介させていただきます。

## ■ 三宅先生を偲んで

元理事・元「家族の会」滋賀県支部代表 猿山由美子

三宅先生とのおつきあいは、40年にもなります。滋賀県支部の結成を依頼されての10年、本部組織の充実のための10年、国際会議への参加と日本開催までの10年、そして病を得た妻の介護をサポートする10年でしょうか。「家族の会」から離れてしまわれた最後の10年を振りかえって、偲んでみたいと思います。

奥様の病は、脳症による記憶障害から始まりました。アルツハイマー型認知症によく似ているようでしたが、日によりとても正常な日もあり、病名は定かではありませんでした。奥様の2回目の骨折入院時から尿意、便意を失い、介護も手をやく大変なものになっていったと思います。私は最初、奥様の友人であった草津市の二人と三人でお見舞いに行ったのです。

先生が一人で介護するのは大変ですし、奥様も喜んでくださるからと1ヵ月に1回、手作りランチを持って訪問するようになったのです。それから8年も続いた訳ですが、先生の心臓の手術での入院もありました。その時の保証人は猿山でした。介護疲れ解消のためのショートを利用しようと、施設の見学訪問もご一緒しました。先生に介護の疲れがみえてきて、もう限界ではないかと思うころ、奥様が他界され、続いて先生もあの世に旅立たれてしまいました。100回以上のランチのつきあいは、濃密な時間だったと思います。私たちのお節介を喜んで受け入れてくださったことに、深く感謝しています。

## ■ 先生との交友を名誉に思う

国際アルツハイマー病協会議長 グレン・リーズ

ドクター三宅と長年にわたって親交を持てたことをとても名誉に思います。亡くなられた奥様への愛情を込めた介護のこともお聞きしていました。いろいろなご苦労にもかかわらず、ユーモアにあふれたセンスの持ち主でした。オーストラリアアルツハイマー協会設立当時の困難な時期に私を助けてくれたことを決して忘れません。ドクター三宅は、広く豊かな精神で、世界をより良いものにしてくれた本当にすばらしい人でした。心より追悼の意を表します。



おい かわ まき ひで  
及川 昌秀さん

56歳・山形県支部

56歳の及川さん、病気がわかつてからも、仕事を継続し、2人の息子さんと奥様の4人暮らし。仕事の傍ら、「記憶より記録」とデジカメ撮影や旅行を楽しめ、また、山形市で、『おれんじドア山形』を開催しておられます。奥様がまとめてくださいました。

（編集委員 松本律子）

## 糖尿病+若年性アルツハイマー病!!

平成26年の春から症状があったようですが、自覚がまったくないまま、妻の勧めで検査を受けました。糖尿病で1日2回のインスリン注射で血糖値が不安定なせいか？と血糖値調整のための入院も併せて、2回の入院検査の結果「若年性アルツハイマー病」と診断を受け、「えっ！ どうして自分が」と、何度も思い、暫くは立ち直ることができませんでした。

## 会社や同僚の理解のもと、仕事を継続

家のローンが残っているので、会社を辞めさせられたら、これから的生活は？と、不安でしたが、会社からは「引き続き働いてほしい」との言葉をいただき、本当に感謝しています。職場の同僚にも、若年性アルツハイマー病になったことを話し、現在は他の職場の人たちからも、目と声をかけていただきながら働いています。

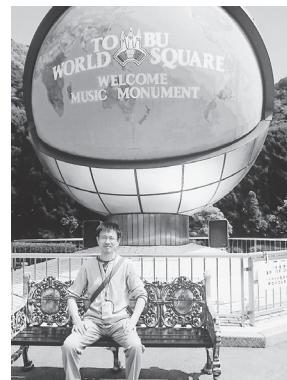
## 運転をやめても、楽しみをみつけて

車の運転をやめたので、何か趣味をと、始めたのがデジカメでの撮影です。会社への通勤時はもちろん、休日も妻が運転する隣に乗り、デジカメ撮影を楽しんでいます。以前、『ぽ～れば～れ』で沖縄の大城さんが「記憶より記録」と言った言葉が、自分にもマッチしていると思い、沢山デジ

カメで撮っています。

旅行が好きな私は、「どこどこに行きたいな～！」と言うと、妻が手配して連れて行ってくれるので、今度はどこに行けるのか楽しみにしています。

（まっ、私自身、言ったことさえ忘れています…）



## 「おれんじドア山形」を定期開催

また、私と同じ病気で不安になっている人のために何かできたらと始めたのが、月1回第1土曜日に山形市で開いている『おれんじドア山形』です。

いつも参加している人たちとの楽しいひとときが、私にとって張り合いになっています。

## 体調を整えて、定年までを目標に

以前から疲れやすいのですが、2つの病気を持っているので、仕方がないのかな?!と諦めています。（とにかく早く寝るように努力はしているが、疲れが取れない）体調を整えながら、定年まで働くことが今の目標です。

車の運転ができなくても楽しいことは沢山あり、何よりも周りの人たちに助けていただきながら生活していることに感謝しています。



## 本人交流の場

（詳細は各支部まで）

宮城●4月5日・19日(土)10:30～15:00／  
翼のつどい→泉区南光台市民センター  
山形●4月14日(土)13:00～15:00／置賜  
のつどい・本人のつどい→置賜総合文化  
センター2階  
埼玉●4月28日(土)11:00～14:30／若年

のつどい上尾→上尾プラザ22

千葉●5月27日(日)13:00～15:30／若年・

本人のつどい→千葉県社会福祉センター

静岡●5月8日(火)10:00～13:00／若年

性のつどい→富士市フィランセ西館

愛知●4月7日(土)13:30～16:00／「元

気かい」→東海市しあわせ村

●5月12日(土)13:30～16:00／「元気か

い」→東海市しあわせ村

広島●4月7日(土)11:00～15:30／陽溜

まりの会東部→福山すこやかセンター

●4月14日(土)11:00～15:30／陽溜まり

の会広島→お花見

●4月21日(土)11:00～15:30／陽溜まり

の会北部→三次市十日市コミュニティ

センター

●4月28日(土)11:00～15:30／陽溜まり

の会西部→廿日市市総合福祉センター

福岡●4月4日(火)10:00～12:00／あま

やどりの会→福岡市市民福祉プラザ

# 会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル  
仲之町519番地 京都社会福祉会館内  
「家族の会」編集委員会宛

FAX.075-811-8188  
Eメール office@alzheimer.or.jp

## 母の拒否が強くて困っています

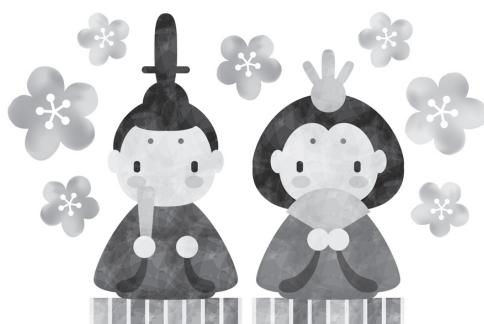
●大阪府 Aさん 40歳代 女性

70歳代の母は、1年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。介護しているのは父で、長女の私は月に1回から2回、様子を見に行っている状況です。介護認定がおりて、デイサービスに通わせようと父と一緒に自治体に相談しましたが、母の拒否が強く、何もサービスを受けられないまま症状が悪化している状態です。通院すらできていません。とにかく何らかの役に立つ情報が欲しくて、「家族の会」に入会する次第です。

## 言い合える仲間がほしい

●神奈川県 Bさん 40歳代 女性

70歳代の父は、レビー小体型認知症と診断されました。病気の父に対し、家族で共有したいのですが、母もうつ病のため、難しいです。主人は話を聞いてくれますが、一人っ子の私にはもっと言い合える仲間もほしいです。家族に同じ病気の方がいる人と話したいです。



## 失敗はあるけど、明るく生きています

●栃木県 Cさん 70歳代 女性

100歳に12日足りない義母を見送り、78歳になったばかりの主人は突然、2015年11月の夜、この世の生活のお別れとなりました。二人とも認知症になっていました。今度は私がバトンタッチしたようで、翌月にはMCIとの診断を受け、薬を飲み始めました。5mgまでは良かったのですが、レミニール、リバスタッチ、メマリーの3種とも10mgになると吐き気が激しくなるので、今はサプリメントを飲んでいます。

一人暮らしですが、皆さんに支えられて前向きに明るく生きています。失敗はたくさんありますが、一人で注意し、ごめんなさいを言ったりして楽しんでいます。この間は、物忘れ外来で支払いを忘れ、事務員さんに「支払いをお願いします」と言われてしまいました。（笑）

## 寝不足です

●千葉県 Dさん 60歳代 女性

70歳代の夫を、デイケア、デイサービスで9時から午後3時半まで預かっていただける間はホッとします。でも、すべてその場で記憶がなくなってしまうので、気分が悪いと行かないとガンということを聞きます。家にいても趣味がないので、寝ることしかありません。夜中に起こされ、私自身、寝不足で困っています。

## 先の見えない介護

●茨城県 Eさん 60歳代 男性

60歳代の妻は昨年、前頭側頭型認知症と診断されました。認知症がわかった時、家のお金全部使ってしまっていたので、年金のみで先の見えない介護を始め、今後の生活が不安である。

妻との意思疎通はできなくなってしまっており、こちらの言うことはまったく聞かないので、手におえない。義父母に家を用意したため、数千万円の損失となり、妻の退職金は浪費でなくなり、蓄えが10万円もない年金暮らしになってしまっている。介護にはお金がかかり、大変困っている。終日、目が離せない。

## 今からのスタートです

●岩手県 Fさん 40歳代 女性

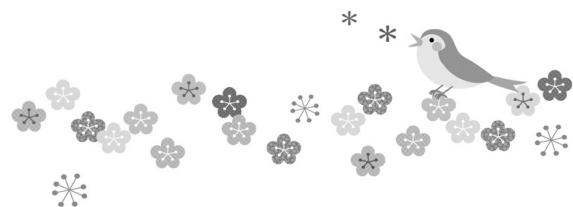
80歳代の母は、昨年末から認知症を疑う症状があります。今後を考えて早めにと思い、介護認定を申請しましたが、調査をしてもらった直後から、物忘れや新しいことを覚えられなくなったり、現金の管理が難しくなってしまいました。それに加え、腰痛で食事の支度もできなくなり、本人も内心苦しいと思います。子どもは私しかおらず、遠方に暮らすため、通うのも大変な日々。そんな私を見かねて叔母がいろいろ力になってくれた際、「家族の会」を教えてくれました。今からのスタートです。

## 見聞を広げ、仕事にも役立てたい

●岐阜県 Gさん 20歳代 男性

認知症の方やそのご家族のナマの声を聞き、介護職として見聞を広げていきたいと思い、「家族の会」に入会しました。

母も70歳となり、いつか認知症になるかもしれないと思うので、自分の今後の介護にも役立てたいと思います。



## 前を向いて歩いていこう

●大分県 Hさん 60歳代 女性

75歳の主人を5年、介護してきました。今は鼻腔から胃ろうになり、施設に預けて1年が経過しました。しばらくは家の中にポッカリ穴があいたようで、2日に一回は会いに行っていました。資格をいかしてとグループホームから声がかかり、午前中パートに出るようになりました。

市報で「家族の会」を知り、3年前より入会しています。いろいろお話を聞き、主人を介護していた時のことを思い出し、もう少し在宅介護を続けたかったという思いもありますが、施設の方の温かい対応に嬉しくて涙する時もあり、とても感謝しています。これからは残りの人生、前を向いて歩いていこうと思っています。

## 笑いと歌を忘れずに

●新潟県 Iさん 80歳代 女性

早朝、オシッコ漏れでベッドも衣類も…。全更衣でヘトヘト、でも、アハハ…です。今、日々変身の真っ只中。介護に定説なし…を身をもって知ることになり、時にボーゼン！です。また、日をかえて、介護者自身の心身のコンディションのいい日はそれを楽しめることにも気づきました。変幻自在な夫の変身ぶりに併せる気力、体力、知力…この三者をキープすべく、日夜頭をひねり、行きついたところは、やっぱり笑いと歌を忘れずに！でした。どんな時も優しさは最高の良薬ですね。枯渇しないよう自身もチャージしながらです。

※お名前はイニシャルではありません。  
年齢は「50歳代」等で表記しています。